

| | |
|--|--|
| 研究課題名 | 特発性肺線維症急性増悪後の長期生存とステロイド早期漸減の関連 |
| 研究機関名 | 武藏野赤十字病院 |
| 研究責任者 | 所属 呼吸器内科 氏名 久保田 夏史 |
| 研究期間 | (西暦) 倫理審査委員会承認後～2025年12月 |
| 研究の意義・目的 | 特発性肺線維症急性増悪に対する治療としてステロイド加療が一般に行われているが、投与量および投与法については日本および国際ガイドラインにおいても明確な推奨はなされていない。平時の特発性肺線維症に対するステロイド治療は、呼吸機能の悪化や急性増悪率の増加などが報告されており、急性増悪の急性期を過ぎた時点で早期に漸減・終了を目指すことが望ましいと考えられる。日本のガイドラインでは初期量から2-4週ごとにプレドニゾロン5mgの減量が、推奨ではなく治療の例としてあげられているが、これよりもより早い漸減をした症例でその後の長期予後が改善する可能性があり、今回検討する。 |
| 研究の方法 (対象期間含む) | 2010年1月～2024年4月に当院に特発性肺線維症急性増悪として入院した患者の臨床データを後ろ向きにカルテから抽出し解析する。 |
| ①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む) | ①試料は採取しない。電子カルテより患者様の身体所見、血液検査データおよびその後の予後について解析を行う。 ②身長、体重、年齢、性別、治療内容、血液検査、臨床症状など 2010年1月～2024年4月に当院で特発性肺線維症急性増悪と診断され治療を行った患者 |
| ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 | ③武藏野赤十字病院 呼吸器内科 久保田 夏史、瀧 玲子 |
| ③利用する者の範囲 | ④武藏野赤十字病院 呼吸器内科 久保田 夏史 武藏野赤十字病院 院長 黒崎 雅之 |
| ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称 | |
| 問合せ先 | 当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問合わせ 〒180-8610 東京都武藏野市境南町1-26-1 武藏野赤十字病院 所属 呼吸器内科 氏名 久保田 夏史 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6771 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525 |